

## 特集

## 査読を考える 査読ガイドラインの構築に向けて

査読ガイドライン構築に向けて 萱間真美

〈座談会〉査読ガイドライン構築に向けて何が必要か？

小泉俊三, 山本則子, 法橋尚宏, 萱間真美

海外の査読ガイドラインから 〈equator〉Dr. Iveta Simera ほか

海外誌の査読の現状から—ガイドラインを中心に 半澤節子, 江藤宏美, 丸光恵  
学会の動向から

〈日本看護学教育学会〉秋元典子, 〈JJNS〉グレッグ美鈴, 〈日本家族社会学会〉池岡義孝

査読を受けた経験をいま査読者としてどうかすか 河野あゆみ, 西垣昌和, 跡上富美

【特別記事】

よりよいヘルスケアの実現に向けて道筋をリードする—IMHL を通じて世界へ

L. Breitner / 翻訳: 緒方泰子, 湯本淑江

特別養護老人ホームにおけるミューチュアル・アクションリサーチ 小山千加代

【連載】

混合研究法入門・6 抱井尚子

Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ・6

USCF で看護研究を学ぶ・6 齋藤真希

## 編集後記

●本誌の担当になり、質的研究の方法としてまず覚えておいたほうがいいと教えられたのが、グラウンデッド・セオリーと現象学とエスノグラフィーでした。それぞれがどのようなものかもわからないまま、とにかく三種の神器のように頭に入れました。そのクセが残っているのか、これらをやや図式的に捉えている気もしていたので、本特集のさまざまな“語り”には自分の視界が開ける瞬間が幾度もありました。西村氏、山本氏ともに、いま看護研究は過渡期にあるのではないかという趣旨の言葉がありました。対談とディスカッションのみならず特集全体を通じて、確かに、方法論の議論を超えて、これからの研究者へと継承されていくであろう看護研究の未来と看護学の新たな知が、少しずつ確実に形成されつつあるような気がしました。●来年を少し先取りして、新連載が始まりました。英語論文の執筆。これも、看護研究の大きな展望の1つですね。アメリカはノースカロライナの現地からお届けします。(小長谷)

看護研究 第48巻 第6号(通巻262号) 2015年10月15日発行(増刊号を含め年7回発行)

発行: 株式会社医学書院 代表者 金原優 〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23

Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo ©2015, Printed in Japan

販売部 (03) 3817-5659 社内案内 (03) 3817-5600 医学書院ホームページ <http://www.igaku-shoin.co.jp>『看護研究』編集室: (03) 3817-5775 電子メールアドレス [kanken@igaku-shoin.co.jp](mailto:kanken@igaku-shoin.co.jp) 担当/小長谷・早田  
1部定価1,900円+税2015年年間購読料(税込, 送料弊社負担, 増刊号を含む年7冊): 冊子版13,025円 冊子+電子版/個人  
16,265円 冊子+電子版/共有18,274円 電子版/個人13,025円 電子版/共有15,034円

〈割割年間購読料〉冊子版10,498円 冊子+電子版/個人13,738円 電子版/個人10,498円

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行なうことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行なうことは違法となります。

【JCOPY】出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は, そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話03-3513-6969, FAX03-3513-6979, e-mail [info@jcopy.or.jp](mailto:info@jcopy.or.jp))の許諾を得てください。

## ●編集顧問(五十音順)

小島操子

聖隷クリストファー大学・教授(学長)

中島紀恵子

新潟県立看護大学・名誉教授

中西睦子

前国際医療福祉大学・教授

前原澄子

前京都橋大学看護教育研修センター・所長

南 裕子

高知県立大学・学長

## ●編集協力者

阿曾洋子/荒川靖子

井部俊子/蝦名美智子

太田喜久子/岡谷恵子

片田範子/金井Pak 雅子

上泉和子/川口孝泰

河口てる子/川村佐和子

黒田裕子/高橋泰子

近田敬子/筒井真優美

水流聡子/野嶋佐由美

早川和生/舟島なをみ

村嶋幸代/森 恵美

安酸史子/山本あい子

横尾京子

## 看護研究バックナンバー

Vol.  
48  
No.  
5  
Jul  
Aug

### ●特集 | NP 教育の成果を探る—自律した Health Care Provider をめざして

大学院修士課程における診療看護師(NP)養成教育と法制化 藤内美保, 山西文子  
(NPのアウトカムとエビデンス)

#### ①一般病院のケース

プライマリケア領域における周手術期アウトカム, 患者満足度, 看護師からの評価—診療看護師(NP)を導入して5年目の事例 塩月成則, 藤内美保, 藤本響子, 甲斐かつ子, 宮内信治, 小野剛志, 小寺隆元

診療看護師(JNP)の活動がもたらす影響—長崎医療センターでの臨床研修をととしての成果 本田和也, 和泉泰衛

周術期領域における診療看護師(NP)の活動と成果 吉田弘毅, 伊藤豊

チーム医療「急性期早期離床チーム」における診療看護師(NP)の役割 平田尚子, 菊野隆明

消化器外科病棟における診療看護師(NP)の役割と成果 飯野雅子, 鈴木英之

#### ②在宅医療・訪問看護のケース

診療所における診療看護師(NP)の活動と成果 長谷川健美, 山田顕士, 福田広美

訪問看護ステーションにおける診療看護師(NP)導入前後の実態調査—訪問看護関連報酬に焦点を当てて 光根美保, 守永里美, 藤内美保, 宮内信治, 阿南みと子, 財前博文

#### ③介護老人保健施設, 重症心身障害児(者)施設等のケース

介護老人保健施設における診療看護師(NP)の活動成果 廣瀬福美, 小野美喜, 小寺隆

重症心身障害児(者)施設における診療看護師(NP)の成果 後藤愛, 高野政子, 佐藤圭右

#### ④看護の視点からみたケース

高齢者医療施設における診療看護師(NP)の活動成果 平野優, 町屋晴美

(座談会)

診療看護師(NP)の新たな発展をめざして—活動の成果とこれからのビジョン 草間朋子, 村嶋幸代, 真田弘美, 深井照美  
The Contributions of Research in the Development of Nurse Practitioners in the United States Jamesetta A. Newland

(特別記事)

看護における知的財産活動の活性化のために看護系大学における知的財産活動 丞村宏

(連載)

混合研究法入門④ 混合研究法の手続き(その2) 抱井尚子

Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ④ 看護学生への災害時の看護管理教育を考える 小玉淑巨

米国の看護研究チームの活動を知る—項目反応理論モデルを用いた二次分析 那須佳津美

UCSFで看護研究を学ぶ④ 倫理審査委員会への研究計画申請と学生生活 齋藤真希

Vol.  
48  
No.  
4  
Suppl.

### ●増刊号特集 | 大学院で学ぶ意味—新たな看護を創るために

(博士修了の立場から)

大学院における研究のプロセスと学び 内川洋子, 山田 寛

臨床での経験と研究, そして研究結果を実践で活用するための研究へ 菊地悦子, 酒井郁子

東日本大震災がきっかけとなった研究活動 佐藤眞理, 吉沢豊子

新たな知の創造 山内朋子, 筒井真優美

(修士修了の立場から)

リカバリー志向の共同意思決定 Shared Decision Making との出会い 青木裕見, 萱間真美

大学院で学ぶことから展開する知識の応用と研究に対する自覚—修士論文の研究の進行過程を辿りながら 新 裕紀子, 中尾久子

看護研究から問題解決の方法を学ぶ 藤原美保, 坂下玲子

“わからないこと”を考え続ける—その原点としての修士論文 細野知子, 西村ユミ

人生に面白味を与えてくれた大学院 三田村裕子, 金井 Pak 雅子

スタートライン—看護師が働きやすい環境を考え続けたい 横山麻美, 山本則子

実践に根ざした知を創る 吉行紀子, 河野あゆみ

(特別記事)

臨床を中心に考える看護研究者のあり方とは—クリティックとシステムティックレビューの重要性 植木慎悟

【文化人類学と看護学—質的研究をめぐる】

文化人類学からみた看護領域における質的研究の特殊性—なぜカテゴリーが好まれるのか? 磯野真穂

看護学における質的研究の独自性と課題—文化人類学者の問いが突きつけるもの 田辺けい子, 水崎知子

(原著論文)

住民との協働を基盤とした活動の保健師の行動意図に影響する要因の構造 山谷麻由美, 中尾八重子, 竹口和江

Vol.  
48  
No.  
3  
May  
Jun

### ●特集 | 医療権力論—看護界・医療界はいま

看護師は医療という権力装置の尖兵であるという自覚をもつべきである—医療権力論, revisited & reflected 中本高夫

看護師の批判的思考を研究に活かすために—日本の質的看護研究における理論の活用可能性 谷津裕子

生体肝移植ドナーの語りにみる“健康体”という幻想 永田明

助産師の語りにみる“母乳育児推進”という権力装置 濱田真由美

小児気管支喘息にまつわる言説と子どもの体験 深谷基裕

“更年期”をめぐる言説に戸惑う女性たち 新田真弓

(特別記事)

【第34回日本看護科学学会学術集会/(株)医学書院共催ランチョンセミナーより】

事象が分析方法を教えてくれるとは?—現象学的研究入門 西村ユミ

(研究報告)

中高年看護師の職業的キャリア成熟度の特徴と関連する要因 近藤暁子, 小泉麻美

(連載)

混合研究法入門③ 混合研究法の手続き(その1) 抱井尚子

Journal Watch 海外の看護学研究から学ぶ③ オランダの研究から日本の看護師の専門的能力開発のあり方を考える 井尻弓子  
申し送りにみる文化 佐藤可奈

UCSFで看護研究を学ぶ③ 博士課程でのコースワークとUCSFにおける多様性 齋藤真希

